

# グンゼ株式会社

(コード番号：3002)

## 2020年3月期（124期） 第2四半期決算説明資料

2019年11月5日

# 1. 第2四半期 決算概要

# I-1. 2020年3月期 第2四半期累計 業績

## 連結業績

(単位 ; 百万円, %)

	2020年 3月期 第2Q累計	2019年 3月期 第2Q累計	対前期		利益率(%)	
			増減額	増減率 (%)	2020年 3月期 第2Q累計	2019年 3月期 第2Q累計
売上高	71,027	68,566	2,460	3.6%	-	-
営業利益	3,290	3,256	34	1.0%	4.6%	4.7%
経常利益	3,355	3,660	△305	△8.3%	4.7%	5.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	2,159	2,546	△386	△15.2%	3.0%	3.7%

前期 営業外利益 (為替差益)	265
当期 営業外損失 (為替差損)	-117
当期 特別利益 (受取和解金)	128

# I-2. 第2四半期決算サマリー

## 機能ソリューション事業

(単位：億円)

対前年 増減		主なポイント
売上高	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>●半導体市場の低迷による影響を受ける</li> <li>◆プラスチックフィルムは、ナイロンフィルムが堅調に推移も、OPPフィルムや多層フィルムは市況の影響を受け苦戦</li> <li>◆エンジニアリングプラスチックは、OA向け商品が堅調に推移も、半導体市場向けが苦戦</li> </ul>
営業利益	△3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆電子部品は、フィルム販売は減少も、中国内販は堅調に推移</li> <li>◆メディカルは、(株)メディカルユーアンドエイの子会社化により増収も、米国向け縫合補強材の減少と治験費用等の増加影響を受ける</li> </ul>

## アパレル事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●差異化商品の拡販と成長戦略への取り組み強化に加え、消費増税に伴う駆け込み需要もあり、順調に推移</li> <li>◆インナーウェアは、レディスインナーは、ブランドリニューアルしたTucheが好調に推移、メンズインナーは前年発売したBODYWILD「AIRZ」及びTシャツ専用のインナーウェア「in.T (インティー)」等の差異化商品に加えて、スポーツカテゴリー商品が順調に推移</li> <li>◆レグウェアは、レギンスが堅調に推移</li> </ul>
営業利益	4	

## ライフクリエイト事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	△0	◆不動産関連では、ショッピングセンターは大型連休や夏休み期間を中心に堅調に推移、賃貸事業においては新規物件が貢献
営業利益	△0	◆スポーツクラブは、会員数の減少に歯止めがかかったものの新店舗の費用負担で苦戦

# I-3. 第2四半期セグメント別業績

## 連結業績

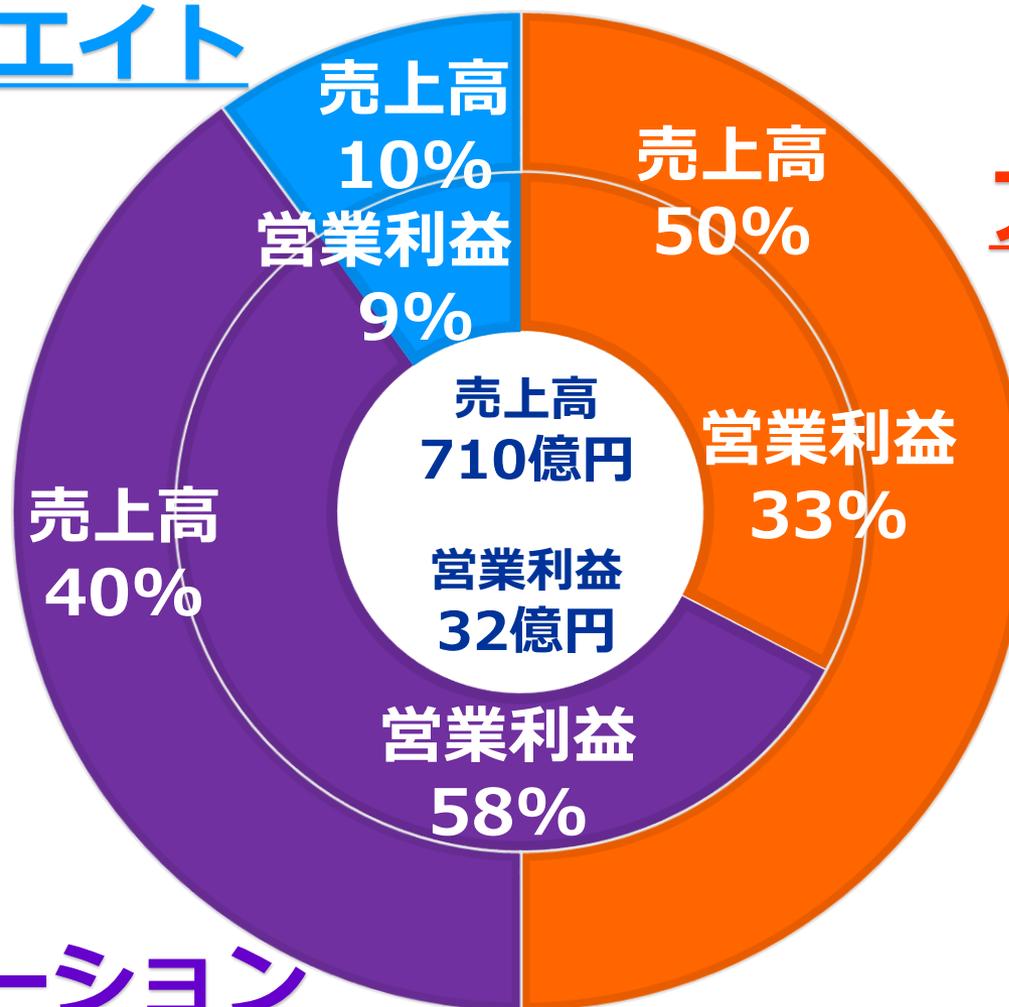
(単位：百万円)

	売上高			営業利益（下段：利益率）		
	2020年 3月期 第2Q累計	2019年 3月期 第2Q累計	増減	2020年 3月期 第2Q累計	2019年 3月期 第2Q累計	増減
機能ソリューション	28,253	26,020	8.6% 2,233	2,790 9.9%	3,161 12.1%	△11.7% △370
アパレル	35,688	35,409	0.8% 279	1,619 4.5%	1,142 3.2%	41.8% 477
ライフクリエイト	7,300	7,327	△0.4% △26	445 6.1%	539 7.4%	△17.4% △94
合計	71,027	68,566	3.6% 2,460	3,290 4.6%	3,256 4.7%	1.0% 34

## I-4. 第2四半期累計 セグメント別構成比

ライフクリエイイト

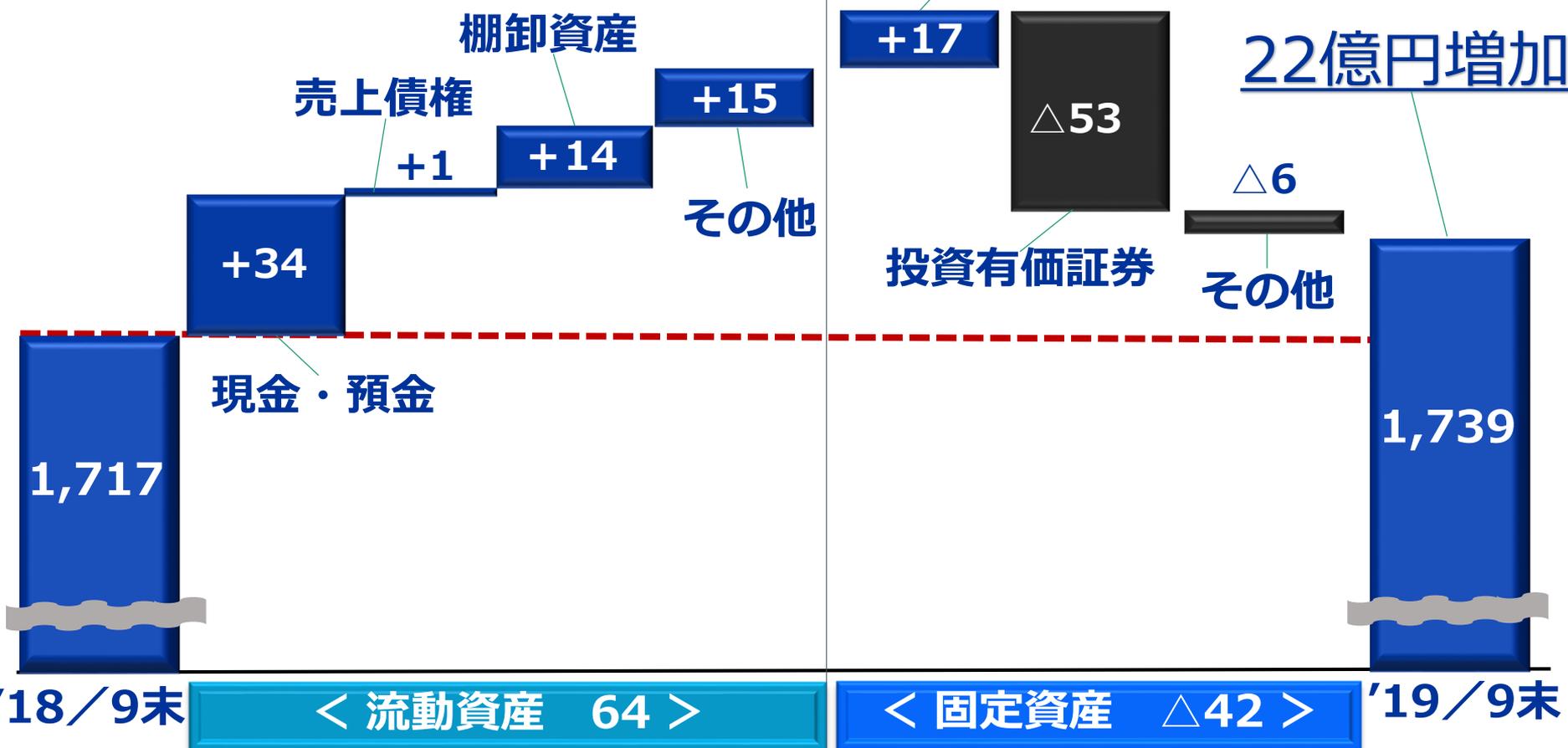
アパレル



機能ソリューション

# I-5. 資産の増減内容

## ◆ 前年同期比（前第2四半期末比較）



## I-6. 主要財務・経営指標(連結)

	単位	2020年 3月期 9月末実績	2019年 3月期 9月末実績	増減
総資産	百万円	173,999	171,755	2,243
自己資本	百万円	107,983	111,199	△3,216
自己資本比率	%	62.1	64.7	△2.6
有利子負債額	百万円	31,351	29,135	2,215
BPS : 1株当たり純資産	円	6,027.10	6,164.63	△137.53

# I-7. キャッシュフロー

## キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2020年 3月期 9月末実績	2019年 3月期 9月末実績	増減
営業活動	4,890	3,614	1,276
投資活動	△5,588	△3,664	△1,923
FCF	△698	△50	△647
財務活動	2,374	△2,483	4,857
現金及び 現金同等物 の期末残高	10,417	7,001	3,415

### ■ 主な営業CF

税金等調整前四半期純利益	3,350
減価償却費	3,187
法人税等の支払	△1,520

### ■ 主な投資CF

固定資産の取得	△4,238
子会社株式の取得による支出	△1,080

### ■ 主な財務CF

コマーシャル・ペーパーの増加	5,400
配当金支払	△1,987

# I-8. 設備投資と減価償却費

## ◆ 前年同期比（第2四半期累計）

（単位：百万円）

	設備投資					減価償却				
	2020年 3月期			2019年 3月期	増減	2020年 3月期			2019年 3月期	増減
	修正計画	年初計画	2Q累計	2Q累計		修正計画	年初計画	2Q累計	2Q累計	
機能リユース	4,700	4,800	693	1,151	△458	2,400	2,400	1,197	1,297	△100
アパレル	1,400	1,600	265	586	△321	1,500	1,500	656	651	5
ライフウェア	2,500	2,600	862	192	670	1,800	1,800	1,016	957	59
その他	500	500	111	104	7	800	800	383	387	△4
合計	9,100	9,500	1,932	2,034	△102	6,500	6,500	3,253	3,294	△41

### ■ 今期の主な投資計画

エンジニアリングプラスチック生産設備	2,500
商業施設整備及び賃貸住宅新築	2,300
プラスチックフィルム生産設備	1,800
インナーウェア生産設備	800

## Ⅱ. 事業セグメント別の概況

## Ⅱ-1. 第2四半期累計事業概況

### ◆ 機能ソリューション事業 1

#### ■ プラスチック

新市場・新商品の開発とベトナム新工場の立ち上げでグローバル生産体制を強化

◆ 製品群	概況
平板収縮	・ 飲料用途は天候不順の影響を受ける
ナイロン	・ 冷凍食品市場拡大・フードロス削減ニーズで冷凍耐ピン用途拡大
工業用品	・ 半導体市場の低迷影響を受ける
OPP	・ 工場野菜用途は、青果物市場の安値影響を受ける
グローバル	・ アジア向けが在庫調整影響受けるも、実需は堅調に推移



■ ナイロンフィルム

#### ■ エンジニアリングプラスチックス

主力OA市場向け機能商品に加え、産業機器、繊維製品、健康・医療分野で次の柱事業を育てる

◆ 製品群	概況
OA向け機能商品	・ 中国、新興国向けのカラープリンターが好調
非OA分野	・ 半導体不況の影響を受ける



■ シームレスベルト

## Ⅱ-2. 第2四半期累計事業概況

### ◆ 機能ソリューション事業 2

#### ■ 電子部品

差異化技術力の向上と筋肉質経営により、持続的黒字経営に繋がる事業へ再構築

##### ◆ 製品群

##### 概況

- |        |                              |
|--------|------------------------------|
| タッチパネル | ・ 中国内販、及び国内産業機器向けPCAPが順調に推移  |
| フィルム販売 | ・ 米中貿易摩擦によるスマホの新規開発遅れの影響を受ける |
| その他    | ・ 受託加工は量産化に向け、試作を継続          |



■ ウェットコーティング

#### ■ メディカル

新たに株式会社メディカルユーアンドエイを子会社化し骨接合材等の拡大を目指す

##### ◆ 製品群

##### 概況

- |              |   |
|--------------|---|
| 組織補強材        | ・ 国内は新たな診療科(消化器外科)で浸透を図り拡販、欧州向けも好調だが、北米向けの減少をカバーできず |
| 骨接合材         | ・ 国内整形外科領域および中国向けは堅調も顎顔面領域が苦戦                       |
| 人工皮膚         | ・ 国内の新製品ペルナックGプラスは新たな症例獲得で堅調に推移                     |
| メディカルユーアンドエイ | ・ 人工硬膜デュラウェーブ等が伸長                                   |



■ ペルナックGプラス

## Ⅱ-3. 第2四半期累計事業概況

### ◆ アパレル事業

#### ■ インナーウェア分野

BODYWILD「AIRZ」の展開店舗拡大を進め、完全無縫製・カットオフ、スポーツカテゴリー商品を拡販するとともにEC等の新規成長販路の拡大を図る

- 差異化技術商品、リテール部門が堅調  
消費増税前の駆け込み需要が上乘せ

- BODYWILD：「AIRZ」バリエーション拡大等による店頭鮮度UPで好調維持
  - YG：Tシャツ専用インナー「in T」がEC中心に好調
  - ADIDAS：スポーツトレンドと連動し伸長
- 
- KIREILABO：カップ付きインナー、シーズン無縫製インナーが好調
  - Tuché：ブランドリニューアル効果で好調、特にEC,SPAで好評



■「AIRZ」seam off



■YG「in.T」



■Tuché「Lacy Air」

#### ■ レッグウェア分野

新商品の訴求力強化と展開強化並びに新機軸追求による成長拡大を進め、最適生産体制によるコスト構造の変革を図る

- 主力ストッキングは苦戦も、レギンス等好調
- ストッキング：ストッキングは低調に推移したがRIZAPは全ルートで好調  
またトレンドのレギンスも伸長
- LDソックス：フットカバー、レギパン、ソックスが堅調に推移



■Tuché「Leggings」

## Ⅱ-4. 第2四半期累計事業概況

### ◆ ライフクリエイイト事業

#### ■ 不動産関連分野

商業施設の収益力向上とグループの発展に向けて  
 投資効率を考慮した保有資産の有効活用を推進

##### ● SC事業の現況

- ・つかしん：主力の大型店とサービス関連が全体を牽引し、来街者・テナト売上ともに好調
- ・鴻巣前橋：鴻巣は人気テナト誘致効果等で堅調も、前橋はテナト売上不振の影響を受ける

##### ● 不動産賃貸事業の現況

- ・4月から商業施設(島根県出雲市)の新規物件収入が寄与
- ・賃貸住宅は、新規物件(東京都杉並区)等により増収



■ SUPER CENTER PLANT出雲店

#### ■ スポーツクラブ分野

店舗特性に合わせたオペレーション改革による売上の伸長

##### ● 既存店

- ・価格訴求キャンペーン効果により会員数の減少に歯止めがかかる

##### ● 新規店

- ・吹田ミカ、吹田健都はスクールが順調に増加、ピエラ明舞は順調に会員獲得

##### ● 海外 (カンボジア)

- ・定期的なイベント実施により認知度、会員継続率の向上を図る



■ ピエラ明舞店  
 (2019年4月開業)

## Ⅲ. 今後の見通し

## Ⅲ-1. 2020年3月期連結業績予想

### 業績予想

※業績予想修正：無

(単位：百万円)

項目	2020年 3月期		2019年 3月期		対前年	
	業績予想	利益率	実績	利益率	増減	増減率
売上高	147,000		140,706		6,294	4.5%
営業利益	7,000	4.8%	6,690	4.8%	310	4.6%
経常利益	6,800	4.6%	7,152	5.1%	△352	△4.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,300	2.9%	4,087	2.9%	213	5.2%

## Ⅲ-2. セグメント別業績予想

### セグメント別の対前期比較

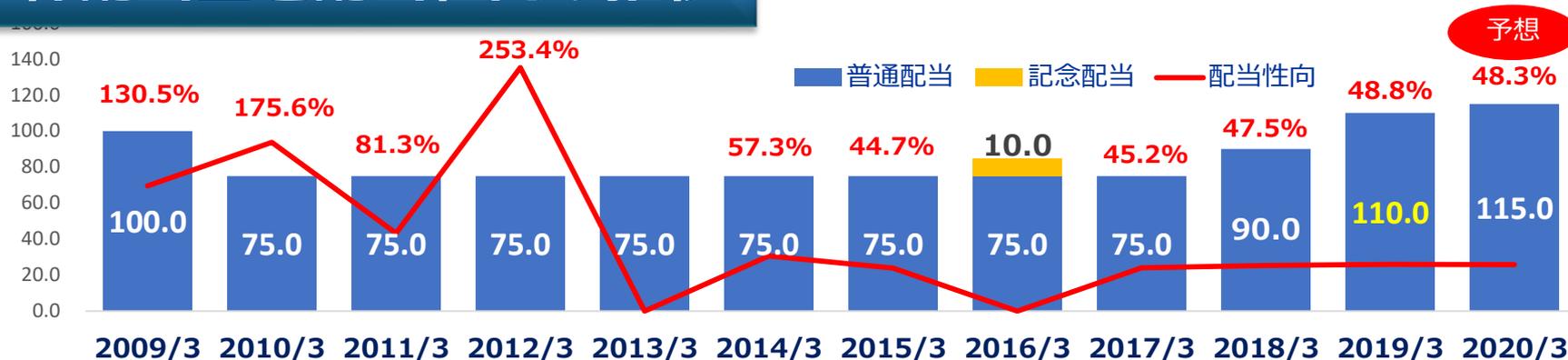
※業績予想修正：無 (単位：百万円)

	売上高			営業利益 (下段：利益率)		
	2020年 3月期 (2019年度)	2019年 3月期 (2018年度)	増減	2020年 3月期 (2019年度)	2019年 3月期 (2018年度)	増減
機能 ソリューション	58,300	53,234	9.5% 5,066	6,300 10.8%	6,160 11.6%	2.3% 140
アパレル	73,300	72,609	1.0% 691	3,000 4.1%	2,507 3.5%	19.7% 493
ライフ クリエイト	15,900	15,285	4.0% 615	1,300 8.2%	1,241 8.1%	4.8% 59
合計	147,000	140,706	4.5% 6,294	7,000 4.8%	6,690 4.8%	4.6% 310

# Ⅲ-3. 株主還元

## 1 株配当金と配当性向の推移

(単位：円)



## 自社株の状況

\* 2017年10月1日からの株式併合(10株を1株) に合わせて、2017年3月末以前の株数を換算しております



2019年度は、取得株数420千株、取得額2,100百万円をそれぞれ上限とし、自己株式を取得する予定

CAN 2 0第2フェーズでは、連結配当性向50%、総還元性向100%を目途に利益還元を行う方針

明日をもっと、ここちよく

# GUNZE

本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません。